

戦後教育改革期における教育課程改革と 教材研究会編『教材研究』誌

丸 山 剛 史
尾 高 進
志 村 聡 子

Brief Report of Kyozaï-Kenkyu (Journal of studies on subject matters:1946-1950)

MARUYAMA Tsuyoshi, ODAKA Susumu, SHIMURA Akiko

1 はじめに

本稿は、戦後日本教育課程史に関する基礎的作業の一環として、戦後教育改革期に刊行された教材研究会編『教材研究』誌をとりあげて検討する⁽¹⁾。ここでは、紙幅の関係により、同誌の性格に関して考察することとする。

ここでとりあげる『教材研究』（前、『国民学校教材研究』）誌は、1946年12月25日、国民学校教材研究会（後、教材研究会）により創刊された月刊の教育雑誌であり、1950年5月に発行された第5巻第5号で終刊を迎えた。この間に約40冊が刊行されたとみられる⁽²⁾。確認し得たのは、創刊号の他、第2巻第5号から第5巻第5号までの35冊である。

2 国民学校教材研究会創設

2-1 国民学校教材研究会と機関誌『国民学校教材研究』

国民学校教材研究会は、「国民学校教育についてその教材等を科学的に研究し、教育内容の刷新向上に寄与することを目的」とした組織であり、1946年12月前後に発会したとみられる⁽³⁾。創刊号には会の規約が示されており、規約は次の13条で構成されている。

第一条 本会は国民学校教材研究会といふ

第二条 本会は事務所を東京都渋谷区千駄ヶ谷四丁目八一二番地に置く

- 第三条 本会は国民学校教育についてその教材等を科学的に研究し、教育内容の刷新向上に寄与するための事業を行ふ
- 第四条 本会は前条の目的を達するため左の事業を行ふ
一、機関誌『国民学校教材研究』（月刊）の発行
二、国民学校教材等についての研究会、講習会、講演会の開催
- 第五条 本会は本会の目的及び事業に賛成して加入する希望する国民学校職員並に有識経験者で組織する、学校その他の団体を単位として加入してよい
- 第六条 本会は年に一度以上大会を開く
- 第七条 本会の会員は会費として、半年につき金貳拾壱円を前納するものとする
- 第八条 本会の会員は機関雑誌「国民学校教材研究」の配布を受け（郵税本会負担）本会の事業に参加することが出来る
- 第九条 必要により各地に支部を置く
- 第十条 本会は会員中より委員を互選す
- 第十一条 本会の経費は会費寄付金、事業収入金その他の収入で支弁する
- 第十二条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る
- 第十三条 その他の細則は必要によって委員会で定める

この規約は、新学制発足後、若干の字句修正が施されたけれども、その後も継続的に適用された。字句修正されたのは、組織の名称、機関誌の名称、研究対象の3つであり、それぞれ「国民学校教材研究会」から「教材研究会」へ、『国民学校教材研究』から『教材研究』へ、「国民学校教育」から「小中学校教育」へと改められた。

また、第四条に記されているように、『国民学校教材研究』誌は、こうした国民学校教材研究会の月刊の機関誌として発行された教育雑誌であった。

2-2 国民学校教材研究会創設の背景と文部省教科書局教材研究課

国民学校教材研究会創設の背景に関して、創刊号の編集後記は、次のように述べている。「私どもはもつと科学的にもつと合理的に精選された豊富な教材を通して児童を一そう立派な新日本の公民に仕立てあげようとする意欲に燃えて『国民学校教材研究会』を創設したのであります。私どもは自己の力で児童教育の諸問題や教材を科学的に深く掘り下げて調査研究しその結果を実際に生かして行きたいと念願しているのであります。」

また、研究会創設には、次の9人が「創設準備委員」として参加したとされる（所属・役職はいずれも1946年12月当時のもの）。

相澤脩一（深川区元加賀国民学校長）、青木誠四郎（東京医科歯科大学予科長）、上飯坂好実（杉並区第七国民学校長）、木宮乾峰（文部事務官）、西村巖（文部事務官）、向山嘉章（京橋区築地文海国民学校長）、村田英吉（牛込区牛込第五国民学校長）、山口友吉（小石川区窪町国民学校長）、山田忠雄（世田谷区経堂国民学校長）

ここでは、青木誠四郎、木宮乾峰^{けんほう}、西村巖らが参加していたことが着目される。なぜなら、3人は、いずれも文部省教科書局教材研究課関係者であったからである。

青木誠四郎（1894～1956年）は、「戦前から教育実践に寄与する心理学研究を進めてきた教育心理学研究者」として知られている⁽⁴⁾。青木に関しては、戦後日本教育課程史において、敗戦直後にはコースオブスタディ編纂委員会委員長として『学習指導要領 一般編（試案）昭和二十二年度』編纂を担当し、1949年の教育課程審議会発足にあたって初めて組織された同会の会長を務めたことなどが知られている⁽⁵⁾。研究会発会の1946年12月当時は、文部省教科書局調査課長を退き、東京医科歯科大学予科長となっていた時期であり、創刊号「編集室だより」には、同研究会の理論リーダーの役割を青木に期待することが記されていた。

木宮乾峰（1904～2000年）は、「（1947年版学習指導要領：引用者）試案としての学習指導要領を、現場の実践によって検討していくという方針の具体策」としての実験学校での検討等にあたって責任ある立場にあり、1950年には文部省初等教育課教育課程係係長として教育委員会による学習指導要領編集に関して解説するなどし、戦後日本教育課程史においてその氏名が登場する人物である⁽⁶⁾。

西村巖（生没年不明）は1946年12月当時、文部省教科書局教材研究課長であった⁽⁷⁾。

文部省教科書局教材研究課は、1946年12月4日、教科書局調査課の名称を改めて発足した組織であり⁽⁸⁾、上記の3人は、いずれも文部省教科書局教材研究課関係者であった。雑誌が刊行された時期は教材研究課が発足した直後でもあった。

教材研究課は、教科用図書及び教材に関する調査研究を行うことなどを担当しており、1947年5月23日の文部省分課規程中改正以後は、学習指導要領編修及び「実験学校」等との調査研究を実施することも担当するようになった⁽⁹⁾。

3. 文部省教科書局教材研究課と教材研究会編『教材研究』誌

1946年12月前後の文部省教科書局は、「公民教育構想」の具体化及び学習指導要領作成につながる教科課程改正に取り組んでいた。

「公民教育構想」は、「戦前の公民教育を批判的に検討し、新たな公民教育を発足させようとした動き」であった⁽¹⁰⁾。1946年5月7日には、文部省が「公民教育実施に関する件」を通達し、それに基づく講習会を全国数カ所で開催し、公民教育の実施を促した。同年10月には、『公民教師用書』も発行された。この『公民教師用書』は、国民学校用と中等学校・青年学校用に分かれており、国民学校用を青木誠四郎、中等学校・青年学校用を勝田守一、竹内良知らが執筆したとされる。

教材研究会が青木を理論リーダーとし、会の目的として「公民」の育成を掲げて発足した点、『教材研究』誌の創刊号に中等学校・青年学校用の執筆者の一人である勝田の「高等科の公民教育について」⁽¹¹⁾が掲載されていた点、さらに文部省職員だけでなく国民学校教師らも

創設準備委員として参画していた点を考え合わせると、会の発足及び『教材研究』誌の発刊は、上記の「公民教育構想」の推進と関係があったのではないと思われる。

教科課程改正の取り組みに関しては、1946年4月には、文部省内で教科課程改正準備委員会が検討作業を開始するなどしていた⁽¹²⁾。同年5月には、文部省は、同年度使用の教科書に関する実験的調査を実施するために長野師範学校男子部附属小学校を教科書局実験校にしていた。同年12月には、長野師範学校男子部附属小学校に加えて、東京第二師範学校男子部附属小学校、同女子部附属小、千葉師範学校男子部附属小、同女子部附属小、栃木師範学校男子部附属小、同女子部附属小の6校が追加で実験学校に指定されていた⁽¹³⁾。

文末の資料1「執筆者一覧」にみられるように、『教材研究』誌の論稿は、その大半が教科課程改正に取り組んだ文部省教科書局事務官、教科書局実験学校に指定された学校及び同校教師の執筆によるものであった。

また、教材研究会は会の活動に関して、会の規約のなかで、機関誌の発行とともに小中学校教材等の研究会、講習会、講演会を掲げていたけれども、ここにも文部省教科書局事務官が関与していた。会の規約に基づいて実施されたものと思われるが、『学習指導要領 一般編（試案）昭和二十二年度』刊行後の1947年5月19日、神奈川師範学校女子部附属小学校で、教材研究会後援による「新学習指導講習会」が開催されていた。開催記録によれば同講習会は「学習指導要領編さん関係の諸先生を煩わし、何よりも実際に役だつようにと時間も十分に計画」したものとされ、以下の内容で講習会が実施された⁽¹⁴⁾。

5月19日「学習指導の一般原則と指導計画の立て方」	編さん委員長	青木誠四郎
「新教科課程」	教材研究課長	石山脩平
20日「理科の学習指導」	文部事務官	坪井敏男
「図画・工作の学習指導」	文部事務官	山形寛
21日「自由研究の指導」	文部事務官	坪井敏男
「国語科の学習指導」	文部事務官	石森延男
「社会科の学習指導」	文部事務官	重松鷹泰
22日「家庭科の学習指導」		大森まつよ
「音楽科の学習指導」		諸井三郎
「算数科の学習指導」	文部事務官	和田義信

このように、教材研究会の取り組みには、文部省教科書局関係者が多数関与しており、『教材研究』誌は、戦後教育改革期における文部省の教育課程行政と密接に関連するものであったと考えられる。

文部省教科書局及び同局教材研究課は、1949年5月31日の文部省設置法により、教科書局等が再編され、教材研究課も廃止された。この頃までに、青木は東京家政大学へ転出し、西村は他の部局に転出していた。木宮は、初等中等教育の教育課程関係の事務を担当する初等中等教育局に配属され、同局初等教育課教育課程係担当となっていた。

教育課程関係に関しては、初等中等教育局がその事務を担当するとともに、1949年7月18日、政令第275号「教育課程審議会令」により、教育課程に関する事項を調査研究審議する組織として新たに教育課程審議会が設置された。この審議会には、「心理学者」として青木誠四郎も参加した⁽¹⁵⁾。木宮も「教育課程審議会幹事」の一人として同審議会に関与した⁽¹⁶⁾。また、1950年5月2日には、大臣裁定「教材等調査審議会規程」も制定されたとみられ、教材に関する専門的な調査組織も整備されてきたと考えられる⁽¹⁷⁾。

1950年5月号をもって『教材研究』誌は、「休刊」（実質的には終刊）を迎えた。同年5月号の編集後記は、「休刊」に関して、次のように述べている。

「創刊以来満四年半の間御愛読を賜りました『教材研究』も、一応その使命を果たしましたので、昭和二十五年五月号を以て一時休刊することになりました。……新教育も軌道に乗り、教材研究会の最初企画しました目的も略々達せられたと考えられるに至りましたので、ここに一応休刊させていただくことにしました。」

「休刊」の理由は明記されておらず定かではないが、同誌の休刊にも文部省の教育課程行政の変化が関係していたものとみられる。

4. まとめにかえて

以上のようにみてきて、教材研究会編『教材研究』誌の性格に関して、少なくとも次のことは指摘しておきたい。

第一に、『教材研究』誌は、青木誠四郎や木宮乾峰ら、文部省の教育課程行政の中心にいた人物が主に担い、文部省教科書局関係者（実験学校及びその関係者を含む）が多数執筆していたことである。第二に、刊行当時は、文部省教科書局関係者を中心に公民教育構想が形成され、その後、教育委員会による学習指導要領編修も検討されるなど、文部省の教育課程行政が形成された時期であったことである。

このように、教材研究会編『教材研究』誌は、1946年12月から1950年5月にかけて、文部省における教育課程に関する教育行政のあり方が検討された時期に、文部省教科書局関係者により、教育課程に関する啓発誌的役割を期待されて編集されたものと考えられる。いずれにしても、同誌は、文部省教科書局関係者が深く関わっていた点で、戦後教育改革期の教育課程史を検討する際の基礎資料の1つとなるように思われる。

最後に、筆者らは、日本技術教育史、日本家庭教育史の観点から青木誠四郎と彼の日本教育史における位置に関心をもち検討を進めていることを付言しておく。検討の過程で青木が『教材研究』誌にほぼ毎号寄稿していることを知り、同誌に注目した。

注

- (1) 『教材研究』誌は、木戸若雄『昭和の教育ジャーナリズム』（大空社、1990年）でとりあげられていない。
- (2) 合併号が刊行された可能性を否定できないので「約40冊」と記した。
- (3) 「国民学校教材研究会規約」及び「編集室だより」『国民学校教材研究』創刊号、1946年、48～49ページ。
- (4) 木村元「青木誠四郎」久保義三・米田俊彦・駒込武・児美川孝一郎編著『現代教育史事典』東京書籍、2001年、479ページ。
- (5) 肥田野直・稲垣忠彦編著『戦後日本の教育改革 6 教育課程・総論』東京大学出版会、1971年、188、237ページ。
- (6) 肥田野・稲垣、前掲書、192、230ページ。木宮は後年、『静岡新聞』に連載した回想記で文部省の教育課程行政に携わるなかで『教材研究』誌の編集を担当し、寄稿していたことを述べている（木宮乾峰「わが青春（16）」『静岡新聞』、1984年12月29日付）。なお、木宮に関しては戦前、『国体の本義』の執筆に関与していたことが知られている。詳しくは、前田一男『『教学刷新』の設計者・伊東延吉の役割』（寺崎昌男・編集委員会共編『近代日本における知の配分と国民統合』第一法規出版、1993年、379ページ）を参照されたい。
- (7) 「教科書局職員配置表（昭和二二，一，二五）」（渡部宗助編『戦後教育改革資料 13 大島文義旧蔵文書目録』国立教育政策研究所、2002年、10ページ）、1946年6月末までは、教材研究課の前身とみられる調査課の課長を青木誠四郎が務めていた。
- (8) 近代日本教育制度史料編纂会『近代日本教育制度史料 第十九巻』講談社、1964年、423ページ。
- (9) 同上、428～429ページ。
- (10) 斉藤利彦「公民教育」（久保義三・米田俊彦・駒込武・児美川孝一郎編著『現代教育史事典』東京書籍、2001年、233ページ）及び片上宗二編著『敗戦直後の公民教育構想』（教育史料出版会、1984年、11～24ページ）を参照されたい。
- (11) なお、『国民学校教材研究』創刊号に掲載された勝田守一「高等科の公民教育について」は、「勝田守一 略歴・著作目録」（『勝田守一著作集 第7巻』国土社、1974年）及び「公民教育関係論文（実践記録を含む）リストと著書リスト」（片上、前掲書、261～263ページ）に含まれていない。
- (12) 肥田野・稲垣、前掲書、169ページ。
- (13) 同上、192～193ページ。
- (14) 「新学習指導講習会開催の記」『教材研究』第2巻第5号、1947年、65ページ。
- (15) 「教育課程審議会委員名簿」（大島文義旧蔵文書）
- (16) 「教育課程審議会幹事、書記」（大島文義旧蔵文書）
- (17) 「教材等調査審議会規程（昭和二十五年五月二日 大臣裁定）」（大島文義旧蔵文書）

（丸山 剛史 本学非常勤講師）

（尾高 進 本学専任講師）

（志村 聡子 埼玉学園大学講師）

資料1 教材研究会編『教材研究』誌(1946～1950)執筆一覧

- ・氏名及び団体名等は、五十音順に並べた。
- ・氏名の読み方は、可能な限り読み仮名を調べるよう努めたけれども、確認し得なかったものも少なくない。ご了承ください。
- ・所属あるいは役職は、雑誌に記載されたものを使用した。
- ・利用者の便宜のために、巻号を付した。 例：第3巻第2号 → 3(2)

相澤脩一(東京元加賀小学校長) ……………	3(3)	大橋富貴子(東京女高師附属小学校教諭) ………	4(4)
青池実(文部事務官) ……………	3(5), 5(5)	岡義雄(成蹊学園附属小教諭) ……………	
青木好意(東京第二師範学校女子部附属小学校) ……………	3(3), 3(4), 3(5)	……………	3(2), 4(12), 5(5)
青木誠四郎(東京医科歯科大学予科長－東京医科歯科大学予科長文部事務官－文部省教科書局教材研究課長－東京家政大学学長) ……	1(1), 2(5), 2(6), 2(8・9), 2(10・11), 2(12), 3(1), 3(2), 3(3), 3(4), 3(5), 3(6), 3(7), 3(8), 3(9), 3(10), 3(11), 3(12), 4(1), 4(2), 4(3), 4(4), 4(5), 4(6), 4(7), 4(8), 4(9), 4(10), 4(11), 4(12), 5(1), 5(2), 5(3), 5(4), 5(5)	荻野末(川越市第四小学校教諭) ……………	5(5)
旭中学校 ……………	5(3)	海後宗臣(東京大学教授) ……………	4(8)
芦田均 ……………	2(6)	かじか楼山人 ……………	3(10)
有元右太郎(東京都中学校理科教育研究会長) ……………	3(11)	梶野健二(神奈川師範男子部教官) ……………	5(1)
池浦孝雄(数学研究家) ……………	2(12)	片岡甚太郎(文部事務官) ……………	3(6), 3(7), 3(10), 4(2)
池田義雄 ……………	5(5)	片峰三雄(東京第二師範男子部附属小学校) ……	4(9)
石森延男(文部事務官) ……………	2(6), 2(8・9), 3(1), 4(4)	勝田守一(文部事務官) ……………	1(1)
石山脩平(文部省教材研究課長－文理大教授) ……………	2(8・9), 3(4), 3(6)	香取良範 ……………	3(7)
泉節二(第一師範女子部附小教諭) ……………	5(1)	勝原雅大 ……………	4(3)
伊藤朝雄(長野師範附属教官－松本市外本郷小学校) ……………	1(1), 2(8・9), 3(6), 5(2)	神奈川師範女子部附属小学校 ……………	2(5)
乾輝雄 ……………	4(3)	神奈川師範学校男子部附属中学校 ……………	3(10)
稲垣友美(成蹊学園教官) ……………	4(8)	金兒賢治(東京第三師範学校附属小学校教官) ……………	5(1)
稲沼瑞穂(文部事務官科学教育局) ……………	3(2)	金子孫市(文理大研究室) ……………	3(10)
稲葉一郎 ……………	5(5)	金子武蔵(東京帝大助教授) ……………	1(1)
上田薫(文部事務官) ……………	3(8)	上江洲盛忠(東京都千代田区立永田小学校教諭) ……………	4(7)
上野芳太郎(文部事務官) ……………	4(7), 4(9), 4(10), 5(4)	……………	4(7)
上村節子(常磐小学校) ……………	3(7)	神波利夫(長野師範男子部附属小学校教官－長野県飯田市東中学校教諭) ……	2(8・9), 3(9), 4(12)
宇土正彦(東京医科歯科大学助教授－文部事務官) ……………	2(10・11), 4(9)	上條為人(長野師範学校女子部教諭) ……………	4(7)
遠藤稔(新潟第一師範学校男子部附属小学校) ……………	3(10)	神山利一(藤沢市立第一中学校) ……………	4(2)
大石讓(東京白金小学校長) ……………	5(3)	川西良吉(大田区小池小学校長) ……………	3(2), 4(7), 4(12)
大野巳之吉(東京第二師範学校女子部附属小学校教諭) ……………	2(10・11)	……………	3(6)
大庭正夫(横浜市立北方小学校教諭) ……………	5(5)	上林庸彦 ……………	3(6)
大橋秀雄(文部事務官) ……………	3(8), 4(2)	木内一郎(東京第一師範男子部附属小学校教諭) ……………	3(3)
		……………	3(3)
		木川達爾(東京第二師範男子部附小教官) ……	4(10)
		菊地光秋 ……………	4(12)
		北庸彦 ……………	5(2)
		木田宏(文部事務官) ……………	3(8)
		木宮乾峰(文部事務官) ……………	2(5), 2(8・9), 2(10・11), 2(12), 3(1), 3(4), 3(5), 3(6), 3(7), 3(9), 3(11), 3(12), 4(2), 4(3), 4(5), 4(6), 4(7), 4(10), 5(1), 5(2), 5(3), 5(4)
		教材研究会 ……………	2(5), 3(2), 3(3)
		教材研究会調査部 ……………	2(5)
		教材研究会編集部 ……	3(8), 4(8), 4(9), 4(11)
		桐原葆見(労働科学研究所) ……………	4(11)

- 釘本久春(文部事務官) 1(1)
- 窪田フミ(父兄) 3(7)
- 窪田文子(東京第二師範学校女子部附属小学校父兄)
..... 4(7)
- 久米井東(東京都港区立氷川小学校長)
..... 4(12), 5(2)
- 倉澤栄吉(千葉男子部教授) 4(4)
- 栗原静一(東京第一師範附属小学校教諭) 4(8)
- 栗山重 2(12)
- 黒澤得男(東京第二師範男子部附属小学校主事)
..... 3(1)
- 小池喜雄(文部事務官) 3(11)
- 古賀行義(広島文理大学教授) 4(11)
- 小金井直弼 4(9)
- 小柴千枝子(村山中学教諭) 4(7)
- 小島忠治(東京高師附小教諭) 4(4)
- 小島基(神奈川師範女子部附属小学校教諭) ... 3(5)
- 小島義之(埼玉県比企郡三保谷村立三保谷中学校)
..... 4(12)
- 後藤岩男(東京高等師範学校教授) 3(5)
- 近藤一重 3(5)
- 齋藤文雄(愛育研究所病院長) 4(9)
- 三枝博音 5(5)
- 坂本一郎(東京学芸大学教育研究所員) 4(5)
- 阪本越郎(文部次務官: ママ) 4(12)
- 坂元彦太郎(文部省初等教育課長- 文部省職業課長- 岡山大学教育学部長) 3(4), 4(7)
- 佐藤隆(神奈川県師範女子部附属小学校教諭)
..... 3(1)
- 佐藤瑞彦(財団法人自由学園初等部主事) 5(5)
- 佐藤保太郎(東京高師附属小学校教諭) 3(4)
- 佐藤陸(神奈川師範女子部附属小学校教諭)
..... 4(6)
- 澤田慶輔(東大助教授) 4(10)
- 重松伊八郎(文部事務官) 2(5), 3(8)
- 重松鷹泰(奈良女子高師附属小学校教諭)
..... 3(7), 4(10), 5(1)
- 宍戸良平(文部事務官) 3(8)
- 志波末吉(東京都台東区育英小学校長) 4(8)
- 柴田秀雄(東京第二師範男子部附属小学校教諭)
..... 3(1)
- 周郷博(日本女子大学講師- 東京お茶の水大学教授- 東京家政大学教授)
..... 4(7), 4(8), 4(11), 5(3), 5(4)
- 島田喜知治(文部事務官) 3(6), 3(8)
- 清水晴男 5(4)
- 菅野信正(東京第二師範男子部附属小学校教諭)
..... 3(1)
- 杉山穰(成城学園教諭) 5(5)
- 関口泰(朝日新聞論説委員) 4(11), 4(12), 5(3)
- 瀬戸尊 5(4)
- 大平濠子(啓明学園) 4(8)
- 高木正三(東京学芸大学附属竹早小学校教諭) 5(4)
- 高田通 2(5)
- 高橋金次(千葉師範男子部附属小学校教諭) ... 3(9)
- 高橋俊男(秋田県横手町朝倉小学校) 5(5)
- 武田一郎(文部省視学官- 文部事務官)
..... 4(3), 4(7), 5(3), 5(4), 5(5)
- 竹田俊雄(愛育研究所員) 3(12)
- 竹之内薫(東京学芸大学第二師範追分附属小学校教諭)
..... 5(2)
- 竹之下休蔵(文部事務官) 3(7), 3(9)
- 田澤慶俊 5(5)
- 多地弘三 4(8), 5(2)
- 近森一重(文部事務官) 2(12), 3(8)
- 塚本弘 5(5)
- 塚本越郎 4(12)
- 坪井敏男(文部事務官) ... 2(5), 2(6), 2(10・11), 2(12), 3(4), 3(5), 3(6), 4(3), 4(7), 4(10)
- 東京第二師範女子部附属小学校
..... 2(5), 2(6), 3(1)
- 東京都立第十高等女学校 3(1)
- 飛松正(東京第二師範女子部附属小学校主事)
..... 3(1)
- 富永正(新制高等学校聖学院校長) 3(9)
- 富山師範男子部附属小学校 3(1)
- 内藤完爾 3(10)
- 仲 新 4(8)
- 長坂端午(文部事務官) 3(2), 3(6)
- 中島健蔵(東京大学講師) 4(7)
- 中島花(東京第二師範女子部) 4(9)
- 長田喜代子(豊島区立長崎中学校教諭) 4(8)
- 永田義夫(文部事務官) 3(2)
- 中西孫孝 4(5)
- 中野佐三(東京文理大助教授) 5(1)
- 長野師範学校男子部附属小学校 3(2)
- 長野師範学校男子部附属小学校教材研究会 ... 3(2)
- 中村薫(東京学芸大学追分附属小学校教諭) ... 5(4)
- 西脇英逸(大阪第一師範教授米国教育文庫主任)
..... 3(8)
- 荷見秋次郎(文部事務官) 4(9)
- 野村武衛(文部省学校教育局視学官) 3(1)
- 野呂横行(父兄医者) 3(7)
- 白雨楼主人 4(9), 4(12), 5(3)
- 長谷川喜三郎(千葉県教育研究所) 5(3)
- 波多野完治(お茶の水大学教授) 4(12)
- 花島勝一(千葉師範女子部附属小学校教諭) 3(5)
- 馬場四郎(教育研修所) 3(10)

番匠谷英一(早大教授)	1 (1)	向山嘉章(東京築地小学校長)	4 (7)
光静枝(YWCA総幹事)	3 (6)	宗像誠也(東京文理大教授－東京大学教授)	
樋口正巳(西多摩小学校)	3 (7)	4 (9), 5 (1), 5 (5)
日高一二三	4 (6), 5 (1)	村田好道(長野師範男子部附属小学校教諭)	3 (4)
平野貞(東京第二師範学校女子部附属小学校)		村田良策(東京芸術大学教授)	4 (7)
.....	3 (6)	室井光義(東京桜田小学校教諭)	4 (12)
藤田新吉(東京第二師範男子部附属小学校教諭)		室田昂(東京第三師範附属教官)	1 (1)
.....	3 (1)	諸井三郎(文部事務官)	2 (5)
古川正義(桜田小学校長)	3 (6)	森規矩男(忍岡高校教官)	4 (1), 4 (8)
古谷茂	5 (5)	森田修造(広島県呉市長迫小学校)	5 (5)
編集部	1 (1)	文部省	2 (10・11)
細谷俊夫(名古屋大学教授)		矢口新(中央教育研究所員)	3 (4)
.....	4 (5), 4 (7), 4 (10), 5 (2)	安井光昭(神奈川師範男子部附属小学校教諭)	
堀内敏夫(東京学芸大学教育研究所員)	4 (10)	3 (9), 3 (11)
増田幸一(神戸大学教授)	4 (10)	保柳睦美(文部事務官)	3 (8)
斑目文雄(東京高等師範学校附属中学校教官)		山形寛(文部事務官)	2 (6), 2 (12), 3 (4)
.....	2 (8・9)	山極武利(東京常磐小学校長)	3 (7)
松岡元久	4 (1)	山崎巳代治(神奈川師範女子部附属小学校教諭)	
松井和哥(東京家政大学助教授)	5 (1)	2 (12), 3 (7), 3 (1), 4 (3)
松坂忠則(カナモジカイ常務理事)	1 (1)	山下俊郎(愛育会教養部長)	3 (7), 3 (12)
松原元一(文部事務官－東京学芸大学大泉附中主事)		山本喜治	4 (1)
.....	3 (11), 5 (2)	湯浅明(東大理学部講師)	3 (11)
松村謙(東京第二師範女子部附属小学校教諭－東京学芸大学附属追分分校教諭)	2 (12), 3 (1), 3 (2), 3 (7), 3 (9), 3 (12), 4 (2), 4 (3), 4 (5), 4 (6), 4 (10), 5 (1), 5 (4)	湯浅謹而(文部事務官医学博士)	5 (5)
松本順之(文部省嘱託－文部事務官)		湯川尚文(文京区根津小学校)	5 (4)
.....	2 (6), 2 (10・11), 3 (2), 4 (3), 5 (2)	與水実(文部省教科書編集委員)	3 (8)
丸本喜一(東京高等師範学校附属小学校－東京高師教官)		吉池感右衛門(長野市立山王小学校)	5 (5)
.....	3 (10), 4 (1), 4 (2), 5 (4)	和田五郎(長野雨宮県国民学校長)	1 (1)
丸山留次(東京都台東区育英小学校教諭)	4 (8)	和田義信(文部事務官)	3 (8), 4 (1)
三木安正(文部事務官)	3 (12), 4 (10)	CCシューメーカー	3 (11)
宮田丈夫(文部事務官)	4 (5)	ジョン・J・デブーア	4 (11)
		ヴァージル・イー・ヘリック	3 (12)
		レイ・H・シンプスン	4 (7)
		R・K	3 (7)

資料2 教材研究会編『教材研究』誌(1946～1950)目次集(稿)

・目次一覧を作成するにあたっては、編者が所蔵機関に出向き現物を確認した。編者が現物を確認した所蔵機関を「巻・号」右横のカッコ内に記した。執筆者名右横のカッコ内の数字はページ数を表す。

1946年12月：創刊号(玉川大学図書館)			話し合ひによる算数指導の経過	伊藤朝雄	(33)
新しい教育について	金子武蔵	(1)	実地指導		
生活指導はなぜするか	青木誠四郎	(9)	木琴の製作とその指導	和田五郎	(37)
高等科の公民教育について	勝田守一	(16)	童話劇		
国語問題			鶯の心配	番匠谷英一	(42)
国字問題と国語問題	釘本久春	(22)	アメリカの教科書制度のあらまし	編集部	(27)
カナモジ国字論	松坂忠則	(24)	国内教育事情短信	編集部	(40)
討論法			編集室だより		(48)
本はどうして手に入れるか	室田昂	(30)	国民学校教材研究会規約		(49)

1947年 6月:第2巻第5号(東京大学教育学部図書室)

特集 学習指導計画

学習指導計画のたて方 青木誠四郎 (1)

社会科の学習指導計画と実践記録

神奈川師範女子部附属小学校 (6)

理科の学習指導計画のたて方 坪井敏男 (13)

学習指導計画の具体例

東京第二師範女子部附属小学校 (41)

音楽科の学習指導要領解説と指導案のたて方

諸井三郎 (18)

家庭科の学習指導要領解説とその取扱い方

重松伊八郎 (23)

体育科の指導について 高田通 (27)

自由研究の指導の実際とそのあり方

東京第二師範男子部附属小学校 (29)

学習指導要領を読む 木宮乾峰 (34)

アメリカの課外教育指導 教材研究会 (38)

教科書及び学習指導要領の編さん進行状況と発行の

見通し 教材研究会調査部 (34)

編集室だより・教材研究会規約

1947年 7月:第2巻第6号(東京大学教育学部図書室)

特集 学習結果の考查

教育はすべてである 芦田均 (1)

学習結果の考查と考查結果の活用 青木誠四郎 (4)

学習結果の考查法とその技術 坪井敏男 (10)

図画・工作科学学習結果の考查 山形寛 (16)

教育の科学的考察と素質検査 松本順之 (20)

国語科の教材と解説(一) 石森延男 (26)

夏期休暇の指導案

東京第二師範女子部附属小学校 (36)

編集室だより・次号予告

1947年 9月:第2巻第8・9月号(東京大学教育学部図書室)

特集 社会科の指導

民主教育と社会科 木宮乾峰 (1)

社会科と他教科との関係 石山脩平 (7)

社会科指導計画成立までの基礎的研究

神波利夫 (12)

社会科における指導結果の考查

青木誠四郎 (23)

社会科における態度の形成と評価について

斑目文雄 (28)

話し合いによる算数学習 伊藤朝雄 (36)

国語教材の解説(二) 石森延男 (37)

1947年11月:第2巻第10・11号(東京学芸大学附属図書館)

学習指導と生活調査

青木誠四郎 (1)

児童・青年の生活調査の計画について

木宮乾峰 (6)

生活調査の方法

坪井敏男 (14)

調査結果の統計的処理法

松本順之 (26)

体育における学習指導のプラン

宇土正彦 (31)

「呼びかけ」の考察と演出

大野巳之吉 (36)

資料 児童のひらがなの習得状況

文部省 (39)

編集後記・お知らせとお願い

1947年12月:第2巻第12号(東京学芸大学附属図書館)

学習活動の本質とその発展 青木誠四郎 (1)

教科の特色と学習活動 木宮乾峰 (10)

教科の学習活動

社会科 松村謙 (17)

理科 栗山重 (24)

音楽科 近森一重 (29)

図画工作科 山形寛 (33)

算数科・数学科の教材としての折紙

池浦孝雄・山崎巳代治

学習結果の記録の仕方 坪井敏男 (43)

1948年1月:第3巻第1号(東京大学教育学部図書室)

特集 自由研究

教科の学習から自由研究まで 青木誠四郎 (1)

自由研究の題目の選定と班組織の問題

松村謙 (6)

自由研究の誘導

木宮乾峰 (12)

座談会／自由研究のあり方 自由研究の趣旨／研究題目の

選び方／班組織の作り方／自由研究と教科学習 (18)

我が校の自由研究 富山師範男子附属小学校／東京第二

師範女子部附属小学校／東京都立第十高等女学校 (27)

小学校国語教材について(三) 石森延男 (37)

1948年 2月:第3巻第2号(東京学芸大学附属図書館)

特集 学習効果の判定法

学習効果の判定について 青木誠四郎 (1)

社会科の学習効果判定について

長野師範学校男子部附属小学校 (14)

「社会科学学習効果判定について」に対する批判

東京第二師範男子部附属小学校社会教育研究会 (23)

長坂端午・松本順之・松村謙

理科の学習効果判定について 成蹊学園 岡義雄

「理科学習効果判定について」に対する批判

稲垣瑞穂・松本順之・川西良吉・永田義夫

考查問題具体例

長野師範学校男子部附属小学校 教材研究会 (41)

社会科／算数科／国語科／理科／家庭科

質疑応答 教材研究会 (48)

1948年3月：第3巻第3号(玉川大学図書館)

特集 予備調査

予備調査の意義と必要	青木誠四郎	(1)
予備調査の項目と調査の方法	教材研究会	(7)
予備調査の計画の実際	木内一郎	(21)
智能検査とその活用	相沢脩一	(31)
図画工作の指導と予備調査	青木好意	(39)
四月号予告		(23)

1948年4月：第3巻第4号(東京学芸大学附属図書館)

教材とは何か	青木誠四郎	(1)
実際指導計画の要件	青木誠四郎	(2)
児童の生活と教材と指導計画	坪井敏夫	(7)
教材の地域性	矢口新	(13)
環境と教師	木宮乾峰	(19)
総合学習の指導計画	村田好道	(38)
「総合学習の指導計画」に対する批判	佐藤保太郎	(45)
	坂本彦太郎	(46)
図画工作の学習指導計画をたてる	青木好意	(46)
「図画工作の学習指導計画をたてる」に対する批判	石山脩平	(35)
	山形寛	(36)

次号予告 (6)

1948年5月：第3巻第5号(東京学芸大学附属図書館)

特集 興味と経験

興味と経験の考え方はどんなに変つて来たか	木宮乾峰	(1)
興味や経験はどう学習に関係するか	青木誠四郎	(8)
児童の興味の発達と学習活動	坪井敏男	(14)
児童の興味のかたよりをどう指導するか	後藤岩男	(20)
興味と経験に基づく各科の指導		
算数科	青池実	(26)
理科	小島基	(30)
社会科	花島勝一	(35)
音楽科	近藤一重	(39)
図画工作科	青木好意	(43)
次号予告		(46)

1948年6月：第3巻第6号(東京学芸大学附属図書館)

共同学習と民主教育	石山脩平	(1)
共同学習の指導	青木誠四郎	(4)
話し合いによる学習指導の問題	伊藤朝雄	(11)
共同調査の指導	上林庸彦	(21)
学校における共同作業	島田喜知治	(26)
児童の社会性と共同学習	坪井敏男	(31)

座談会／共同学習について (36)

青木誠四郎 木宮乾峰 光静枝 平野貞	
古川正義 長坂端午	
外国事情	片岡甚太郎 (44)
アメリカの生徒はどんな教師を好み、どんな教師を	
好まぬか	木宮乾峰 (46)
次号予告	(10)

1948年7月：第3巻第7号(東京学芸大学附属図書館)

特集 生活指導

生活指導は如何にあるべきか	山下俊郎	(1)
生活指導ということ	青木誠四郎	(6)
生活指導と社会科	重松鷹泰	(13)
体育科の生活指導	竹之下休蔵	(17)
生活教育における算数の指導	香取良範	(26)
座談会／生活指導と学校と家庭		
青木誠四郎 木宮乾峰 松村謙 山崎巳代治		
上村節子 野呂横行 窪田フミ 樋口正己 山極武利		
海外教育事情		
未来教師の運動	片岡甚太郎	(43)
新教育の実情所見	R・K	(45)
次号予告		(39)

1948年8月：第3巻第8号(東京学芸大学附属図書館)

特集 教科書の選び方使い方

教科書の性格	青木誠四郎	(1)
進歩した国語教科書の要件	輿水実	(10)
小学校社会科教科書の性格	上田薫	(17)
中学校社会科教科書	保柳陸美	(21)
よい算数・数学科の教科書	和田義信	(25)
理科の教科書について	大橋秀雄	(30)
家庭科教科書の採択について	重松伊八郎	(33)
職業科の教科書の在り方	島田喜知治	(37)
英語教科書はどんなものがよいか	穴戸良平	(41)
音楽教育と教科書	近森一重	(44)
教科書採択上の手続	木田宏	(50)
アメリカ教科書の特色	西脇英逸	(57)
教科書制度の回顧	教材研究編集部	(62)

1948年9月：第3巻第9号(東京学芸大学附属図書館)

特集 教科外活動

教科外活動の意味		(1)
教科と教科外活動	木宮乾峰	(2)
校外における児童のグループ活動	青木誠四郎	(8)
教科外活動としての遠足	神波利夫	(16)
自治会の指導	松村謙	(23)
児童の演劇活動と学芸会	安井光昭	(28)
学校新聞の指導	高橋金次	(31)
体育科の課外指導	竹之下休蔵	(37)

- アメリカにおける課外の諸活動 富永正 (43)
- 6 中学校数学科単元学習の諸問題 森規矩男 (41)
- 1948年10月:第3巻第10号(東京大学教育学部図書室)
- 特集 地域社会と教科課程
- 教育の目標と地域社会の要求 金子孫市 (1)
- 児童の生活と地域社会 青木誠四郎 (7)
- 地域社会の教育活動
- 神奈川師範学校男子部附属中学校 (36)
- 社会調査随想 内藤莞爾 (42)
- 海外教育事情 片岡甚太郎 (42)
- 当校における統合的教科課程
- 新潟師範学校男子部附属小学校 遠藤稔 (15)
- 批評
- 新しい課題の発見 馬場四郎 (30)
- 新潟プランを読んで 丸本喜一 (32)
- 断片 かじか楼山人 (35)
- 1948年11月:第3巻第11号(東京大学教育学部附属図書館)
- 特集 経験による学習
- 経験による学習 木宮乾峰 (2)
- 理科教育における実験論とその方法
- 有元石太郎 (7)
- 二つの研究方法とその材料 湯浅明 (12)
- 劇「りようかんさん」とその演出 安井光昭 (16)
- 遊戯的学習とその問題 青木誠四郎 (24)
- 表現活動としての図画工作 小池喜雄 (36)
- 図表作成の指導 松原元一 (30)
- グループによる討議の仕方
- CCシューメーカー (42)
- 1948年12月:第3巻第12号(東京学芸大学附属図書館)
- 特集 発達段階と指導
1. 教育と児童生徒の発達 (1)
2. 低学年児童の生活と指導 山下俊郎 (5)
3. アメリカにおける一つの例 木宮乾峰 (16)
4. 高学年児童の発達と指導 竹田俊雄 (19)
5. 学習遅進児童の問題 三木安正 (25)
6. 中学生の特質とその指導 青木誠四郎 (27)
8. 学習指導の基本問題を読んで 松村謙 (41)
7. 計画ある教科課程と計画のない教科課程
- ヴァージル・イー・ヘリック (42)
- 1949年1月:第4巻第1号(東京大学教育学部図書室)
- 特集 新しい算数・数学の指導
- 1 単元学習と学習指導 青木誠四郎 (1)
- 2 単元学習について 和田義信 (6)
- 3 数学の単元構成について 松岡元久 (18)
- 4 低学年の算数指導 山本喜治 (24)
- 5 小学校における高学年算数指導 丸本喜一 (35)
- 1949年2月:第4巻第2号(東京大学教育学部図書室)
- 特集 カリキュラムの構成法
- 1 カリキュラムをどうして作るか 青木誠四郎 (2)
- 2 目標と実践をつなぐもの 大橋秀雄 (14)
- 3 子供の生活と学習の問題 松村謙 (18)
- 4 学習活動の選択とその編成 木宮乾峰 (23)
- 5 生活カリキュラム 丸本喜一 (33)
- 6 廊下を走る子供 神山利一 (45)
- 7 海外教育事情「偏見撲滅委員会」
- 片岡甚太郎 (47)
- 1949年3月:第4巻第3号(東京大学教育学部図書室)
- 特集 学籍簿・学籍補助簿・家庭通信
- 新しい学籍簿の性格 武田一郎 (2)
- 学籍簿の記入はどのようにしたらよいか (7)
- 編集同人(アイウエオ順) 青木誠四郎, 乾輝雄, 勝原雅大, 木宮幹峰, 坪井敏男, 松本順之, 松村謙, 山崎巳代治
- 標準検査の記録 (8)
- 身体の記録はどのようにしたらよいか (14)
- 行動の記録はどうしてとるか (26)
- 学習の記録をどうして作るか (40)
- 新学籍簿を手にして (57)
- 家庭通信について (62)
- 1949年4月:第4巻第4号(東京大学教育学部図書室)
- 特集 新しい国語の学習
1. 国語教育者に望むもの 石森延男 (2)
2. 国語と単元学習 倉澤栄吉 (6)
3. 言語の発達と国語の初歩指導 青木誠四郎 (17)
4. 中学年の国語単元学習 大橋富貴子 (24)
5. 高学年国語学習指導のありかた
- 国語学習カリキュラムの試案——
- 小島忠治 (37)
6. 「まことさん はなこさん」について
- 石森延男 (50)
- 1949年5月:第4巻第5号(東京大学教育学部図書室)
- 特集 新しい学級経営
1. 学級教育とは何か 細谷俊夫 (2)
2. 学校経営と学級経営 宮田丈夫 (11)
3. 学級経営と学習指導 青木誠四郎 (17)
4. 日課表と指導案 木宮乾峰 (29)
5. 学級における民主的訓練 堀内敏夫 (35)
6. 学級経営と学級文庫 坂本一郎 (43)
7. 私の学級経営 松村謙 (49)
8. 学級経営と問題児 中西孫孝 (56)

1949年6月:第4巻第6号(東京学芸大学附属図書館)

特集 単元指導と指導案

- | | | |
|------------------|-------|------|
| 1. 学習指導は何故必要か | 木宮乾峰 | (2) |
| 2. 指導案の意義とその要件 | 木宮乾峰 | (3) |
| 3. 吉村隊事件の教訓 | 宗像誠也 | (13) |
| 4. 学習活動の発展と指導案 | 青木誠四郎 | (15) |
| 5. 社会科学学習指導案の具体例 | 青木・松村 | (26) |
| 6. 指導案と個人差 | 三木安正 | (40) |
| 7. カリキュラム余談 | 日高一二三 | (44) |
| 8. 指導案の具体例とその解説 | 松村謙 | (46) |
| 9. 国語科における評価 | 佐藤隆 | (57) |

1949年7月:第4巻第7号(東京学芸大学附属図書館)

特集 教育の現状とその批判

新教育への反省

青木誠四郎 (2)

座談会／新教育はどう動いてきたか

中島健蔵 村田良策 青木誠四郎 その他 (3)

新教育になって子供はどのように変ったか

向山嘉章、他 (18)

「学力の低下」について

坂元彦太郎 (27)

学力の現状

小柴千枝子、他 (31)

教育の支柱

中島健蔵 (35)

教育と流行

周郷博 (39)

新教育と教師

川西良吉、他 (49)

自由読書計画の助成

レイ・H・シンプスン (53)

教員組織の現況と現職教育

上野芳太郎 (44)

教育展望

細谷俊夫 (15)

1949年8月:第4巻第8号(東京学芸大学附属図書館)

特集 教科書と参考書

学習指導と教科書

海後宗臣 (2)

展望 ランジュヴァン・プランの実施をめぐって

周郷博 (10)

私の使った教科書 国語／社会／算数／家庭／音楽／理科

志波末吉、栗原静一、森規矩男、大平漢子、

丸山留次、稲垣友美、長田喜代子 (13)

教科書の発達

仲新 (38)

随筆 書癡の喜びと悲しみ

多地弘三 (46)

参考書とワーク・ブック

青木誠四郎 (48)

優良学習書一覧

教材研究会 (59)

1949年9月:第4巻第9号(東京学芸大学附属図書館)

特集 運動会・健康教育

教育課程としての運動会

青木誠四郎 (2)

運動会のプログラムの編成

宇土正彦 (8)

教育展望 新教育と封建遺制

宗像誠也 (13)

私達の経験した運動会の種目

片峰三雄／中島花 (16)

子供を主とした運動会

小金井直弼 (29)

随筆 やきもちをやく

白雨楼主人 (34)

健康のガイダンス

齋藤文雄 (37)

健康教育と生活指導

荷見秋太郎 (42)

教育職員免許法同法施行法解説

上野芳太郎 (48)

優良学習書一覧

教材研究会 (57)

1949年10月:第4巻第10号(独立行政法人国立国語研究所
図書館)

特集 ガイダンス

ガイダンスとは何か

澤田慶輔 (2)

我が校におけるガイダンス

重松鷹泰 (8)

私の学級のガイダンス

木川達爾 (16)

展望 生産学校の現代性

細谷俊夫 (23)

ガイダンスの諸問題

道徳的指導とガイダンス

青木誠四郎 (26)

学習のガイダンス

松村謙 (32)

職業についてのガイダンス

増田幸一 (41)

随筆 とり残された問題

木宮乾峰 (48)

ガイダンスのための児童調査

坪井敏男 (50)

教育職員免許法解説

上野芳太郎 (59)

1949年11月:第4巻第11号(東京大学教育学部図書室)

特集 標準検査

展望 教育者はアメリカに何を学ぶか

周郷博 (2)

知能検査と教育指導

古賀行義 (5)

情意検査について

桐原葆見 (13)

随筆 学校友だち

関口泰 (22)

知能検査を実施する上の問題

青木誠四郎 (24)

批判的読書力の養成

ジョン・J・デプーア (33)

標準学力検査

教材研究会 (39)

1. 標準化学力検査の構成

2. 読方学力検査の試案例

3. 理科学力検査標準問題例

1949年12月:第4巻第12号(東京学芸大学附属図書館)

特集 視覚教育

展望 地方財政の独立と教育自治

関口泰 (2)

視覚教育の重要性

青木誠四郎 (5)

視覚教育の領域

波多野完治 (10)

随筆 ちりあくたと文化国家

白雨楼主人 (13)

視覚教育のヴァラエティー

1. 映画・幻灯・紙芝居

菊地光秋 (15)

2. 地図・グラフ・数・数表

神波利夫 (22)

3. 写真・絵画・漫画・掛図

塚本越郎 (33)

4. 模型・標本・実体鏡

川西良吉 (37)

5. 黒板・掲示板

久米井束 (41)

視覚的方法と社会科指導

室井光義 (48)

視覚的方法と理科指導

岡義雄 (54)

私のやつた視覚教育	小島義之 (60)	教師の自己評価と成長	長谷川喜三郎 (45)
1950年1月:第5巻第1号(東京学芸大学附属図書館)		教材教具・環境の評価と改善	大石譲 (51)
特集 学習活動の展開(指導案の諸問題)		教育技術	周郷博 (57)
教育展望 教育界を明るく	宗像誠也 (2)	職業・家庭科カリキュラム試案	旭中学校 (61)
学習活動の展開と指導案	木宮乾峰 (5)	1950年4月:第5巻第4号(東京学芸大学附属図書館)	
子供の発達と指導案	松村謙 (12)	特集 個人差と学習指導	
環境の設定について	中野佐三 (20)	巻頭言 一人一人の子供の姿を	(2)
学習計画への子供の参加	重松鷹泰 (22)	三つの課題	周郷博 (4)
教材の意義とその選択	青木誠四郎 (33)	教育における個人差の発見	青木誠四郎 (7)
随筆 心ぞう	日高一二三 (40)	個人差とカリキュラム	木宮乾峰 (15)
私の経験した指導のこつ	(42)	学習グループの編成とその指導	武田一郎 (22)
綴方・国語・理科・数学・社会科・音楽・図工		個人差による各教科の指導	
向山・木川・室井・川西・その他		国語	清水晴男 (29)
1950年2月:第5巻第2号(東京学芸大学附属図書館)		社会科	松村謙 (35)
特集 ドリルの問題		算数科	丸本喜一 (40)
教育展望 転換期の教育学	細谷俊夫 (2)	理科	中村薫 (44)
学力低下とドリル	坂元彦太郎 (5)	音楽科	瀬戸尊 (49)
学習指導におけるドリルの位置	青木誠四郎 (10)	絵画	湯川尚文 (51)
カリキュラムとドリル	木宮乾峰 (14)	体育科	高木正二 (54)
ドリルの指導計画	伊藤朝雄 (21)	免許法と現職教育	上野芳太郎 (60)
ドリルの指導法	松原元一 (28)	1950年5月:第5巻第5号(東京学芸大学附属図書館)	
ドリルにおける効果判定	北庸彦 (34)	特集 生活指導	
随筆 ひとのものと自分のもの	多地弘三 (41)	巻頭言 生活は放任されてよいか	(2)
ドリルの諸形態	(43)	日本人の生活 ——特に日常生活について——	
読方・書取・計算・運針・珠算		三枝博音	(4)
久米井束、松本順之、其他		生活指導の方法	青木誠四郎 (8)
1950年3月:第5巻第3号(東京学芸大学附属図書館)		教育展望 教育免許法を叱る	宗像誠也 (17)
特集 評価と進歩		生活指導と教科指導	
巻頭言 進歩のための評価	(2)	理科	岡義雄 (20)
教育展望 高等学校の問題	関口泰 (4)	社会科	池田芳雄 (23)
学校経営の評価と発展	武田一郎 (7)	保健体育	湯浅謹而 (27)
カリキュラムの評価と発展	木宮乾峰 (15)	算数科	青池実 (30)
随筆 習慣	白梅楼主人 (25)	随筆 情操教育	武田一郎 (34)
中学校に於ける職業・家庭科の新しい試案		新しいしつけを求めて 朝倉小学校	高橋俊男 (36)
海後宗臣 (27)		生活指導の実施案とその批判	(45)
児童の進歩の評価とその促進	青木誠四郎 (34)	書評 児童心理学 山下俊郎著	田澤慶俊 (63)